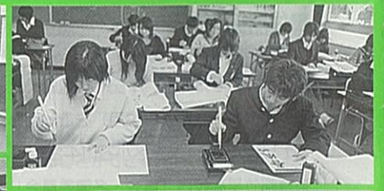
篁会報　2004年（平成16年）15号

発行日　2004年4月24日
発　行　篁会
東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会
〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
編　集　篁会 会報編集委員会
印　刷　株式会社博秀工芸
東京都文京区湯島3-19-5

会報編集委員
委員長　市瀬　勝信（13回生）
委　員　関　　文隆（10回生）
黒瀬　忠生（11回生）
小杉　義信（11回生）
河村　恵子（12回生）
宮田　雄幸（12回生）
遠藤　きみ（13回生）
背戸　民恵（13回生）
竹田　　清（13回生）
浜野　輝夫（13回生）
村上千津子（13回生）
村瀬　共栄（13回生）
渡辺　哲也（13回生）
今浦　恵子（14回生）
桜岡　　元（14回生）
長谷川万里子（14回生）
濱田　弘子（14回生）
茂木伸太郎（14回生）
山内　　亨（14回生）
土田　善則（15回生）
初宿　信子（15回生）



篁

TAKAMURA
2004/No.15
会報

特集 輝いて生きる ……2〜5

講演会・講師紹介　他 ……1
なつかしの先生……6
「都立高校改革」から1年
甲田校長にインタビュー……7
ＮＰＯってなんですか
15年度総会の講演から ……8
関西・湘南篁会 ……10
学校の活動報告 ……11
竹早エコー ……12〜15
在校生NOW / 竹早山荘エコー便り /
クラブOB・OG会を作ろう ……16
いかにして会報は蘇ったか ……17
理事会報告 ……18
総会・創立100周年記念事業報告 …19
篁会会則 ……20
理事名簿・お知らせ
訃報・編集後記 ……21

東京府立第二高等女学校同窓会　東京都立竹早高等学校同窓会

平成16年度

篁会総会

のご案内

会場

東京プリンスホテル

総会・講演会
3階 ゴールデンカップ

懇親会
2階 プロビデンスホール

日時

平成16年 6月6日（日）

受付開始	10：00～（3階）
総　会	10：30～11：00
講　演	11：00～12：00
休　憩	12：00～12：10
演　奏	12：10～12：30 （竹早高校吹奏楽部）16頁で活動紹介
懇親会	12：30～14：30

会費

8,000円

（平成13～15年卒は2,000円
平成16年卒は無料）

■ご出席の方は、同封の葉書で5月15日までにお申し込みください。
■会費は、5月25日までに同封の振込み用紙でお振込みください。

〈総会・講演会講師紹介〉

人生はオフロードレース

能城 律子さん

OFF ROAD

過酷な自然のなかで体験が私を動かす

小柄な体でホテルの廊下を小走りに動き、きびきびとした身のこなしはとても大病を患い余命3年と宣告された人とは思えない。

全てのことに興味を持って夢中で話しすぐに行動に移すエネルギーには感心させられる。初対面の人にも若さの秘訣はこれだと納得させる不思議な力をひめている。

能城さんは、ベビールームを経営する女性経営者、オフロードを疾走する女性ドライバー、女性ボランティア活動家、いずれの紹介にも女性・・・と付けなければならないほどのきゃしゃで女性的なひとだ。

女性経営者

30年前まだ民間の託児施設がない頃、子供をあずかるベビールームをホテル内に開設した。ホテル内での結婚式や会合に子供をあずけて出席するために多くの人々に利用されている。

走りきった者は誰もがチャンピオン

もう一つの顔は、国際A級ライセンスを持つオフロードラリーのドライバー、癌を患い余命3年と宣告された後、58歳の時にA級ライセンスを取得、59歳から国際ラリーに参戦、オーストラリアラリー、ヨーロッパから中央アジアを踏破しモンゴルに至るマスターラリー、グラナダをスタートしダカールにゴールするパリダカラリーなど国際ラリーに14回も参加している。

国際宅配おばさん

世界を旅したり、ラリーでアフリカを走っていると、学校にも行けない子供が地面に木の枝で絵を画いているのを見る。何かしてあげられないか、何かしたいと思ったのがきっかけで、国際宅配便をはじめた。ホテルの従業員からあつめられた使用済みのコンピューター用紙、色鉛筆、一回使うと捨てられてしまうホテルの客室に置かれている石鹸。これを集めて、福祉作業所で表面を削りセロファン紙に包んで届けている。

今年の1月には、戦火のおさまらないイラクへ、自衛隊ですら武器を携帯し、装甲車で行かなければ身を守れない戦闘地域へ武器の代わりにノート、ボールペン、ホテルで廃棄処分された毛布、生活用品を携えて配りに行ってきた。

ラリーで極限の体験をしてきた能城さんはいっている。「平和な何不自由のない文明社会にいるとお互いに助けあいながら生きてゆく人間本来の姿を見失っていくようです。オフロードラリーを通して知ったのは過酷ですばらしい自然の存在、そこに生きる人々の同じく過酷で美しい日々の営み、そこから得た様々な感動、体験が私を動かしています」

（のしろ　りつこ）

■今回　幹事

高校14回生（昭和37年卒業）
高校25回生（昭和48年卒業）
高校35回生（昭和58年卒業）
高校55回生（平成15年卒業）

■次回　幹事

高校15回生（昭和38年卒業）
高校26回生（昭和49年卒業）
高校36回生（昭和59年卒業）
高校56回生（平成16年卒業）

懇親会は、同期会・クラス会・クラブOB会の場としても、ご活用頂けます。下記にご連絡下さい。配席を準備します。

〈お問い合わせ先〉

吉田年子　045-942-6555
橋本昭子　03-3486-8356

交通案内

東京プリンスホテル
〒105-8560東京都港区芝公園3-3-1
TEL:03-3432-1111

車：東京駅から10分、羽田空港から15分
JR線、東京モノレール：浜松町駅から徒歩10分
都営地下鉄三田線：御成門駅から徒歩1分
都営地下鉄浅草線：大門駅から徒歩7分
都営地下鉄大江戸線：大門駅から徒歩7分
地下鉄日比谷線：神谷町駅から徒歩10分

特集 アグレッシブに輝いて生きる

「希望こそ私の秘密兵器」とは、アメリカの良心と云われたノーマン・カズンズ氏のことば。今号の特集では「希望」という宝を常に胸に抱き、教育・人権・環境・伝統芸能などへの貢献に、前向きに・輝いて生きる5人の同窓の方々を紹介します。題して「アグレッシブに輝いて生きる」

■センス オブ ワンダーを育む　鵜澤 八千代
■ハンセン病差別に終止符を！　八重樫 絢子
■発見のよろこび　岩屋 稚沙子
■「森林インストラクター」として活動　黛 治男
■竹早山荘（旧八ヶ岳寮）に係わって　岩田 隆子

センス オブ ワンダーを育む

鵜澤 八千代　高校6回生(昭和29年卒)

私の人生の大きな転機になったのは、早過ぎる夫の死でした。

大学を卒業し数年の教員生活の後に結婚。家業を継いでくれた夫を助けながら子育てに夢中でいる時、突然夫に先立たれ、止む無く建築会社経営の陣頭に立たなければならなくなったのですが、それ程の気負いもなく、周りの人々に支えられ何とか今日まで事業を続けてこられた事を、本当に有難い事と感謝しております。

そんな日々のなか、北区の「教育委員」にご推挙いただき、分野違いではないかと思いつつ、教職の経験、３人の子供の子育ての経験のなかから、一区民としての立場で子供たちの教育や区民の生涯学習のために、何かが出来るならと８年間「委員」を勤めさせていただきました。

一番難しかったのは、未来を担う子供の、日々の教育に関わる教科書選定であり、また少子化による止むを得ない事とはいえ学校の統廃合問題では、地域の方たちと雪の夜遅くまで話し合ったことを忘れることが出来ません。

教育現場のさまざまな現実に触れながら、教育が国づくりの基本であり、教育は物ではなく人であり、その成果を得るには長い長い時間が必要である等々、教育の根本を改めて学び直させていただいた気が致します。そして今、そのことを土台にして、これからの子供たちに「絵本」を通して豊かな心や、自然の不思議等を届けたいと、読み聞かせグループ「たんぽぽ」を立ち上げ、勉強会やお話会を子供たちと一緒に楽しんでいます。

やがて古希を迎えようとしている私が、今日までなんとか無事に来られたのは、人との関わりのなかでいただいた「縁」を大切に、気負わず素直に自分に出来る事を一生懸命取り組んできたお陰かな、と感謝しているのです。

そして、最近始めた俳句を通して私自身の、センス　オブ　ワンダーを豊かに育てていけたらと願っているこの頃です。

ハンセン病差別に終止符を！

八重樫 絢子（村上）　高校14回生（昭和37年卒）

らい予防法廃止（1996年）直前からハンセン病問題に関わり、国家賠償裁判が解決した後も、回復者（元患者）の方たちとのおつき合いを続けている。

そのきっかけは、乳ガンの術後十年経って、生き方を見つめ直していたちょうどその頃、回復者ご夫妻の闘病記出版の手伝いを頼まれたことだった。すでに過去の病気だと思っていたのに、車でよく通りかかる「多摩全生園」（東村山市）がハンセン病療養所であり、全国に約５千人もの入所者が、治癒したにもかかわらず、故郷へ帰れないまま暮らしていると知って、心底仰天した。

出版を機にカミングアウトしたそのご夫妻の活動範囲が広がると同時に、私自身も国内外の回復者と交流する機会が増えたが、まさか50代半ばを過ぎて、国際集会に参加したり、この問題のルポを書く等、これほど大きく人生が変わるとは、考えてもみなかった。

国家賠償裁判を傍聴し支援する中で、原告から、家族を守るため、偽名を使い、家族との縁を切り、存在を消したまま、療養所で一生を終えなければならなかった無念の思い、訴えを聞いて、心を動かされた私は、回復者の皆さんの「生きてきた証」を残したいと、各療養所を訪ね歩いた。

2002年6月NY州で。国際ハンセン病女性会議でブラジル代表（回復者）と

カメラマンの夫がポートレートを撮影し、私がインタビューして生の声を集めてきたが、同期の編集者・稲垣みゆき（鈴木）さんの助言のおかげで、『証言・ハンセン病　もう、うつむかない』（筑摩書房）として出版することができた。

歴史に残る熊本判決で国の過ちが断罪されたとはいえ、黒川温泉宿泊拒否事件に見られるように、ハンセン病差別はいまだに根深く残っている。一人でも多くの人にこの本を読んで理解していただき、ハンセン病差別に終止符を、と願っている。

発見のよろこび

岩屋 稚沙子　観世流能楽師／高校14回生（昭和37年卒）

「能」は、一昨年ユネスコの「人類の無形遺産」に選定され話題を集めました。

一般に能楽師になる人は、その家に生まれ三歳くらいで初舞台を踏み、子方（子役）時代を過ごしつつ謡や舞の稽古、多くの詞章の暗記、囃子の稽古等々を経て20歳ころには一通りの仕上がりを見ます。

私の高校生の頃は、国語の教科書に中世の芸能として「隅田川」と世阿弥の伝書「風姿花伝」の“年来稽古

仕舞「難破」平成15年10月25日

条々”が載っておりました。私はほかにどんな物語があるのかしら、という単純な興味からだんだん引き寄せられて、これが仕事になってしまったものです。ですから、人の仕上がる頃スタートし、その後も「能」の技芸の習得には無駄と思える多くの時間を費やし、元々芸術的センスの乏しい…、にもかかわらず私は「能」に繋がって生きてきました。

「能」のおもしろさ（舞う側からですが）それは謡や舞を繰り返し繰り返し稽古しながら、「自分なりの発見をする」ことにあると思っています。発声の微妙な息との関係、筋肉の緊張や緩み、それによって表れてくる声や構え（姿勢）ハコビ（歩む）の変化。時には曲の内容も。

稽古とは全く不思議なもので、ある時はよく解ったと思い、次にあの時はまだ解っていなかったと思い返し、もっと深く解ったとよろこび、いつまでも止まらないのです。

肉体の衰えも稽古をしていて否応なく知らされ、なんとかならないものか、と、また稽古。私にとっては、世界遺産や芸術とは無関係なところで、ひたすら自分の肉体と「能」の脚本にむかい新発見を志し、希望に満ちているのです。高校生の時の、他にどんな物語があるのかしら、からあまり成長もせずに。

坂井音重師に師事。能楽協会会員。
昭和58年「石橋」／昭和62年「乱」／
平成2年「道成寺」を披く。

「森林インストラクター」として活動

黛　治男　高校14回生（昭和37年卒）

昭和37年竹早高校卒、同42年慶大卒、広告代理店（株）電通に入社。平成14年11月末退社。現在「森林インストラクター」、「環境カウンセラー」として自然解説活動や環境教育支援活動等に従事しております。

「森林インストラクター」の資格は在社中の55才の時に取得をしました。「森林インストラクター」を目指した理由は、幼少時の育った場所が自然豊かな山の中ということもあり、とにかく自然が好きであったことが根底をなしていますが、定年後の生き甲斐の模索という視点が大きかったと思います。

資格取得後、土・日を中心に秩父の「埼玉県民の森」や、所沢市の「狭山丘陵生き物ふれあいの里」自然公園等で県や市の主催による自然解説活動（自然観察会）を続けております。急激な経済の発展は人々の生活を

豊かにしてきたことは事実ですが、反面、多くの自然を破壊し、真の心の豊かさも奪ってきました。日本人の生活は縄文時代から高度成長期前の昭和30年代に至るまで、営々と自然との共生の中で維持されてきました。しかしながら現在、自然は人々の生活の外におかれ、破壊と共に荒廃が進んでいます。その典型的な姿を里山に見ることが出来ます。その結果として地球環境問題という大きな危機にも直面しています。

私の行っている自然解説活動は、自然（里山）の中に入り、様々な動植物の生態、森林の成り立ち、役割、森林文化などの解説を行います。森の中は驚きや、魅力、神秘さに満ち充ちており、様々な発見と感動があります。初めて活動に参加された方々の大半が自然の中の散策の楽しさと、自然の神秘さに触れ感動されます。参加者の方々に感動を与えると同時に、自然の大切さを理解してもらい、自然環境保全の意識を高めてもらうのが我々森林インストラクターの大きな役割でもあるわけです。また子供達への自然体験教育は、自然環境保護という意識を育てると共に総合学習のねらいでもある、自分の力で様々な問題を解決していく「生きる力」を養うのに最適な活動だと思います。

今後も私自身、みなさんと共に大自然の中で驚き、感動し、発見し、より良い生き方を求めて精一杯活動していく所存です。自然体験をなさりたい方はご一報下さい。何時でもご案内いたします。

メールアドレス　j05981@dentsu.co.jp

竹早山荘（旧八ヶ岳寮）に係わって

岩田　隆子　（財）竹早会理事長／高校11回生（昭和34年卒）

竹早山荘は、昭和19年に昭和医大・創立者の上条氏(高女42回小口さん44回木内さんのご尊父)が寄付なさった報国団の小平農園の売却金を基に、財団法人竹早会が設立され、その後、林間施設建設のために不足分を10年にわたり学校債で補い、教職員、卒業生、PTAの協力があって完成しました。戦後の激動の中、青少年の健全育成を願った先人の努力の証のような竹早山荘です。荷が重い、採算が取れないといった理由で投げ出すことはできませんでした。

竹早山荘は同窓生の共有財産です。「自然の中で自ら学ぶ人々の研修施設」「皆様が自由に使えるフリースペース」という位置づけで皆さんにご活用いただき、都会で出来ない活動がいろいろ行われてきました。

大勢の協力で穴窯が築かれ、100時間以上焚かれる共同窯の透き通る炎と窯の中の作品。

アートキャンプに参加する子どもたちの生き生きとした目。オカリナやトロンボーンやアンデスの民族楽

竹早山荘の暖炉の前で

器を奏でる人々。談笑する笑顔。

人生に行き詰まり、本を片手に「八ケ岳寮」を訪れ思索の時を持ち平穏を取り戻すことができたとおっしゃる方。学園紛争で荒れた高校時代を過ごした学年も、唯一の楽しかった思い出の地、竹早山荘を30何年ぶりに訪れ、それをきっかけにHPを立ち上げ交流の輪が広がったそうです。

自然には不思議な力があって人を癒し、元気づけてくれるようです。そんな出会いが生き方を変えることもあるように思うのです。

竹早山荘は、世代を超えたいろいろな交流が生まれる広場なのかもしれません。

造形教育がライフワーク
荘先生との出会いで食養生を勉強、料理教室を十五年続ける。
昭和61年（1986年）より財団法人竹早会の理事長に就任
竹早山荘（旧八ヶ岳寮）の維持運営に当たる

なつかしの先生

小林新三 先生

Profile

1924年新潟県生まれ。新潟師範学校卒業。東京高等師範学校を経て東京文理科大学東洋史学科卒業、同大学研究科修了。都立墨田工業高校教諭を経て都立竹早高校に赴任（1957-1968）。都立千歳高校（1969-1979）を経て学校法人秀明学園に転職。退職後は巻町文化財関係に従事、今日に至る。

「回　想」

現在、私の住んでいる新潟県巻町は、原発の推進、反対を問う住民投票の実施、町長選挙、原発計画の撤回などで一躍全国的に有名になった所です。巻町は日本海に接し、米のブランド商品コシヒカリ生産の穀倉地帯を形成し、本来は平穏な郷村都市です。

今年の成人の日に、奇しくも隣接する吉田町では、還暦に成人の年を加算して80歳を祝う集会が開催されました。私もこの2月に正真の満80歳になります。この間、戦前と戦中、終戦と戦後の再建という激動の時代を経験した者として、まさに感無量です。

思えば、戦局不穏の昭和18年に上京し、学生・入隊・復学、卒業して東京都教員として勤務。竹早高校には昭和32年4月から昭和44年3月までの12年間でした。あたかも高度経済成長期と東京オリンピック開催が重なり、それなりの充実した活気のある時代でした。学校群合同選抜制や厳しい大学受験指導の徹底などに強烈な印象が残っています。当時の校舎は、東京学芸大の付属中とグランド・体育館・講堂などを共同使用するという異常をよく克服し，弱体ながらも懸命にクラブ活動に励む姿勢に敬服しました。授業もまた大変に楽しく、明晰な判断・理解力は秀逸で、在りし日の授業の一齣一齣が浮かんできます。

その後、都立千歳高校勤務10年を経て、埼玉県の新設私立の秀明高校に転職しました。昭和62年に病気退職、以後は病気手術・静養・読書（時に調査研究）を繰り返す浪々の身となりました。平成2年、閑人と為るを求めて帰郷しました。余生を天運に任せ、無理をせず、行雲流水のような常人でありたいと願いつつ努力をしています。

[小林先生のご連絡先]
〒953-0054　新潟県 西蒲原郡 巻町漆山　2543-1
Tel: 0256-76-2434

中原道高 先生

Profile

1950年和歌山県生まれ、高野山の麓で育つ。
多摩美術大学卒業後、毎夏休みに中東やアジアの遺跡を旅する。
特技はコンピュータ関連技術。
1990～2003年まで竹早高校で美術を担当

「世代を超えて」

校歌に「いさぎよし三つの春秋」という印象的なフレーズがあります。生徒が竹早で過ごす「時」の話ですが、私はその4世代分にあたる十三の春秋をここで暮らしました。その間に巣立っていった多くの顔を懐かしく思い出します。

さまざまな出来事との出会いもありました。校舎が全く新しいものに建て替えられ、インターネット時代と遭遇し、そして創立百周年記念事業を経験しました。特に百周年では、百年という区切りで学校を舞台とした社会の歴史を振りかえる視点を学べた事が、大きな成果でした。記念事業委員の先生方と準備室で過ごした活気に満ちた時間は今でも貴重な財産です。

この記念事業を通じて、多くの先生方や卒業生の方々と世代を超えて歴史や活動を共有できたことに深く感謝しています。第二高女時代のアルバムに見た先生と生徒が溌剌として自分たちの教育に立ち向う姿は今も強く心に焼き付いています。昨今の教育現場ではどこか上部からの意向によって、自信がもがれ、教員も生徒も翻弄されてしまっている現状を見るにつけ、あのアルバムを懐かしく思い出します。

現在勤務する新宿山吹高校では社会人も受け入れ、私の生涯学習「絵画教室」では72歳から15歳までの親子孫の3世代が同じ教室で学ぶ貴重な環境を経験しています。幸い「絵を描きたい」という共通の意欲で結ばれているので、世代を超えて和気藹々とした学習が展開しています。

山吹高校HP　http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp/
[中原先生のご連絡先]
〒112-0002　東京都文京区小石川 2-18-1
Tel/Fax: 03-3813-8483
E-mail: nakaharamichitaka@yahoo.co.jp

「都立高校改革」から1年　わが母校の進展の兆しを甲田校長に伺いました

＊4月に各校とも「学校経営計画」を出していますが、竹早の「計画」の進捗状況はどうですか?

前校長が出された計画を踏襲しながら、16年度の新しい改革案を入れ込み「竹早高校経営計画04」を12月初めに作成しました。初めに四大現役合格者数の推移を折れ線グラフにしてみましたがわが校の復元力は見事です。まさに「歴史と伝統に支えられる学校」の底力だと思いますね。今年度の現役進学率は、71%で都立校の中で第1位です。これを将来国公立・難関私大の合格率増加につなげて行きたいと思っています。

＊「将来構想検討委員会」もできましたね

ええ、目指す『学校像』も発表されました。学力の育成は勿論ですが、第二に智・徳・体のバランスのとれた人材の育成、特に国際性・リーダー性を身につけさせる。第三に規律ある生活態度と品位を保持し地域の誇りとなる学校です。これらに基き『アクションプラン2004』を策定しました。具体的には、「国際性」の点では2004年度より年2回1年生からTOEICの試験を受けることを実現したい。将来、海外ボランティア研修旅行ができるとよいのですが。「45分7時間授業と2期制」については、授業時間を確保し、前・後期のバランスをよくするため、夏休みを短くします。また、今年度は、生徒全員が授業全教科を評価するという試みを3回行い、授業改善に活かしていきます。

＊それは先生方も緊張されますね。「学力向上フロンティア ハイスクール」の成果は？

英語科の習熟度別授業を計画しましたが、英語科の先生を一人増員でき、2004度から実施できそうです。これも文科省より指定を受けた結果と思います。

進路指導では、キャリア教育に力を入れます。1～2年生から大学のオープンキャンパスや夏季セミナーへの参加を促します。また、年2回（4月と10月）に学習状況調査と学力診断テストを行います。家で何分勉強し、自分はどこが弱いのか生徒たち自らが振り返られるようにしたいし、それが教科充実につながると思います。

＊「5日制45分7時間授業」の生徒の反応はどうですか?

2ヶ月位はつらそうでしたが、今は慣れてきました。問題は、土曜日の使い方ですが、1～2年生は、自習室で卒業生のサポートティチャーに教えてもらい、3年生は、予備校に行く生徒が多いです。5日制に対してはいよいよ今年は2年目に入りましたから、更なる条件整備をしなければと考えています。

＊同窓会「篁会」に望むことは？

１日も早く各分野で、社会に貢献している卒業生の「人材バンク」の設立をお願いしたい。また、国際理解教育を推進している当校として、海外の大学へ留学生を送るための基金を設けて頂ければと夢を描いています。

（聞き手13回生　背戸・村上）

NPOってなんですか

「この指止まれの市民パワー」 篁会会長 星野昌子

高校2回生（昭和25年卒）

■ NGOとNPO

日本では、国際協力をしているのがNGOで、地元の、自分たちの生活の足元の文化、芸術、教育、街づくり、食の問題、環境問題などにかかわっているのがNPOなんだ、というふうに思われているようです。幸か不幸か、日本にはNGOのほうが先に、1980年代から入ってきて国際協力の市民団体というふうに定着してることはちょっと残念だなと思います。実はNPOという言葉のほうが歴史が古くて、第2次大戦後のアメリカ社会で生まれました。企業と同じように利益は上げるけれども、その利益を社会の不特定多数の人々のために分配しながら活動していく、そういうのが non－profit じゃあないか、というような考え方で、企業に対する一つの市民活動の現象なんですね。日本には逆の順番で輸入され、やっとNPO法案が通り、法人格を持つ市民活動が増えた結果、現在では全国に1万を超す組織が存在するまでになりました。

日本でよくある誤解は、non－profit organizationなのだから、利益を上げちゃいけない、関わっている人たちも、清く、貧しく、美しく、全部ポケットマネーでやるべきだと。ボランティアでやることは経費の節減でいいことですが、その活動が意味を持ってきますと、お給料というか謝礼をお支払いする有給職員が必要になります。りんごを横に二つに切ると、果肉と芯が出てきますね。しっかりした芯（有給職員）がなければそのまわりの果肉（ボランティア）も成長しない、そういう関係にあります。アメリカでは、有給職員がだんだんに増え、そしてボランティアもまた増えるというような形でＮＰＯが社会を動かす主体の一つとなっています。

■ ラオスへ

私は特定非営利活動法人日本NPOセンターの代表理事を6年ほど前からしております。大学を出てから10年間専業主婦の期間がありましたが、いろんな理由で離婚に追い込まれ、子供を置いて家を出ました。ある日、国会図書館で本が出てくるのを待っている間、新聞を広げたら、日本青年海外協力隊の募集がありました。33歳になっていましたから無理かなと思ったんですが、幸い採用され、1965年、日本語教師としてラオスの首都ビエンチャンに渡りました。ところが現地の文部省に挨拶に行きましたら、実は日本語の先生は要らなかったのだと。ショックでしたね。日本大使館が非常に熱心で、いい先生がいるからとってくれ、2年間は給料も日本政府が払うから追い返さないでくれと頼まれたというのです。そのときふと思ったのは、援助する側の勝手でやる援助もあるんだなと。おかしいじゃないかと。実はラオスは、その文部次官の話によると、ファミリー・プランニングの技術がなかったから、女性は10人から1ダースも子供を産むわけです。幼児の死亡率も非常に高い、母親も寿命が短い。そういうふうな状況だから、日本には生きるためのぎりぎりのところの技術を教えてほしい。日本語教師なんか要らないよと。確かにそうだろうなと思いました。

■ 日本国際ボランティアセンターを立ち上げる

ラオスに6年、そして、ベトナム戦争が激しくなり、メコン川を渡ってタイに移り、そこに11年、合計17年あの辺りで生活しましたが、本当は要らないといわれてから15年たって、そのときの思いが、日本国際ボランティアセンター（JVC）という、いわゆるＮＧＯを立ち上げるところにつながるわけなんです。こちらの都合ではなくて、相手にとっていったい何が必要なんだろうというそこに水面下でつながっていたんだなあ、と今になってみればそんなふうに感じます。

ラオスというところは日本の本州とほぼ同じ面積の内陸国で、人口わずか三百数十万人の最貧国です。私はラオスで独身時代が5年あり、日本人学者でインドシナ地域が専門の星野龍夫と再婚しておりました。ラオス人の12歳の女の子を養女にしたり半分くらいは向こうの人間になったようなかたちで日本に帰ることは考えていませんでした。

タイに移った頃（1971）は信じられないくらい反日運動が真っ盛りでした。1979年にはインドシナの難民が、さらにはカンボジア難民がタイに流入する状況を迎え、日本人だからといって何もしないでいいのかしらと、バンコックに住んでいた主婦の方たちに呼びかけJVCを立ち上げ事務局長に就任しました。そして、タイ政府が主催するインドシナ難民救済に関わる国際会議のためホテルの会議場に行きましたら、大きく「NGO」と書いてあったんです。NGOってなんだろうと思いましたね。おはずかしい話ですがそんな状態でした。

■ 「人間同士」だから協力

このあたりで、では日本政府とNGOはどんな関係だったのかお話しますと、JVC発足当時、私は外務省で怒鳴られました。女、子供の団体が医療チーム派遣だなどと何を考えているのか、日本は明治の昔から、難しいこと、重要なことは政府がやることになっているんだ、と。

こんなこともありました。カンボジアから逃げてきた難民を救援しているだけでは難民は止まらない、カンボジアの農業復興のお手伝いをするのがいいんじゃないかということで、世界中のNPOが国際赤十字の飛行機でカンボジア国内に視察に行くことになり、私も名前を連ねました。すると日本大使館から厳しいお電話をいただきました。カンボジアはタイと国交を結んでいないで敵対している、だからタイ在住の日本人の救援物資が送られることがタイ政府に分かったら、ここから追い出される、生意気なことはやるな、と。けれど私は行きました。行った所は、かんかん照りの熱帯の太陽の下にまるでサッカーボールみたいに、ポルポト派兵士に殺された人々の頭骸骨が放置されていました。政府がその国とどういう外交関係かということではなく、やはりわれわれも人間、その人たちも人間ということで協力をするのがNGOの立場です。これがときどき政府ともぶつかります。

ボランティアについても、欧米では、例えば名刺を出したときにそこにボランティアと書いてあるかないかで、その人の重みが違ってきます。ボランティアが尊敬される社会なのです。それなのに日本では、今から2年ほど前でしょうか、中教審で奉仕活動の義務化ということが盛んに議論されました。とんでもない議論です。ボランティアを義務化したらボランティアではなくなるんですね。要するにその人の心の中の問題で、やりたければやり、やりたくなければやらなくていいんです。こういう考え方がもっと浸透してこないと、日本の社会も本当の意味で変わったとはいえないと思います。

■ 広がる活動分野

ＮＰＯ法人は1万を超えているとお話しましたが、その活動はいろんな分野に広がっています。それで、私も71歳になり、今何に関心があるかといいますと、老後をどう生きるかということですね。夫も優しいし、子供も、老後は心配しなくていいなんていってくれますが、体が弱い老人と一緒に暮らすことによって、そうではないときの活動とも、暮らしともずいぶん差が出てくるわけですよね、制限が。家族からの愛情は欲しいけれども、子供たちにそういう思いをさせたくない。というわけでいろいろ悩んでいましたら、実は老後の問題でもＮＰＯがいろいろと出てきているんですね。

たまたま知人が「グループリビング」という活動を始めました。大企業が運営している立派な老人用施設だと入所金が数千万円とかになってしまいますが、そうではなくて、入所金はせいぜい500万円くらいで、毎月の支払いが13万5千円だというのです。入所者は10人くらい。ひとり15畳くらいのスペースがあって、共同の車椅子のままお風呂に入れるような施設があり、大きな台所もあり、各部屋にも小さなキッチンがある。ケアマネージャーがちゃんといて、病院とかにも直結している。それもいいなあ、入りたいなあというような気持ちで私も勉強させていただいています。月に2回くらいは入所者が集まって、このホームというかグループリビングをどういうふうにしていこうかと話し合い、動かしているんですね。お金を払ってやってもらうのではなく、そこに関わっていこう、面倒なことが起きたら自分たちで解決していこう、自分の老後を自立した、生き生きしたものにしよう、と。これは特定非営利活動法人の資格をとりました。たったひとつの例ですが、こんなことだって、自分たちの老後を納得いくものにしたいというような人たちが数名集まって勉強したことから生まれたわけです。いくつになっても、既存の枠にとらわれず、自分が納得のいく生き方を追求したいものです。

平成15年6月29日の
篁会総会における講演抜粋

関西篁会だより

関西篁会会長／高校7回生
野田朱實

関西篁会よりお便りいたします。いつも明るい笑い声が溢れている会場に、なつかしい東京言葉が自然に出てくる関西篁会総会です。

その歴史は古く、大正4年発行の同窓会会報11号に、高女第3回卒業生が9月に遠藤ふみ様宅で第1回同窓会を開き、会報12号に安藤様宅で第２回を開いたと記されています。

その後、昭和、平成と時代は移り幾人もの先輩方のお力で助け合い友情の輪が大きく広がり、80有余年現在に続いております。平成16年1月で、会員217名、主に近畿地方、岡山県、鳥取県、東京在住の方で構成されております。年1回会長、副会長、幹事、お当番で全部手つくりの会報と会員名簿を発行し、毎年秋に総会を開催します。近年は東京篁会、湘南篁会からも会長副会長、理事の方が遠路ご出席賜り相互交流を深める上で喜ばしいことと感謝しております。魅力ある会にするために内容を考えますが、会場選びには大阪、京都、神戸そのほかの地を順に廻して決め駅近くを第一条件に探しています。過去には京都八坂神社、大阪城を眺望する会場、灘の酒蔵などで行ったこともあります。

今年は京都です！　関西篁会総会を起点に、秋の一日をゆっくり京都散策はいかがでしょうか。冒頭に紹介したように和やかな同窓会会場でお待ちいたしております。

平成16年関西篁会総会
日　時：16年11月6日（土）
場　所：京都ルネッサンス「福幸」
　　京都駅鳥丸中央口東側スグ
電　話：075-365-0203

湘南篁会だより

湘南篁会会長／高校2回生
大塚証子

昭和22年に発足し、以来57年の歴史がある湘南篁会は、現在会員数200人余、毎年一回鎌倉の地で総会を開いております。昨年は城戸崎前篁会長を始め45名の方が集い、星野会長から海外での活躍のご様子のお話をうかがいました。会食、懇談の後、ビンゴゲームで童心に返り和気藹々の2時間半をすごしました。

今年の総会は後記の通りです。湘南篁会員の方はもちろんそれ以外の方も、鎌倉散策方々ぜひご参加くださり、楽しいひと時をご一緒ください。

また、去年6月30日に篁会の先輩（高女17回）秋葉鶴子様が創立された婦人子供会館が50周年を迎え、お祝いの会がありました。高女35回橋本様、高校6回田村様他数名の方がバザーや募金に活躍なされました。

1月30日には希望者が集まり、大塚宅で観梅新年会を開きました。その折、湘南篁会会長を20年にわたってお努めいただきました神谷美喜子様（平成15年10月に他界）の責任あるお仕事、ご活躍に敬意を表し、一同心よりご冥福をお祈りいたしました。

毎年、総会の最後を美しいピアノの音色で飾ってくださいます松本紀子様（高女41回）は教育者として活躍されて、一昨年、若い人たちの憧れの鎌倉女子大学を建てられました。

最後に、会員一同心の絆を強め、子育てやお仕事に忙しい方たちにも喜んで参加していただけるような、魅力ある会になるよう努力してまいります。ぜひ、ご協力のほどお願いいたします。

湘南の海辺の青く美しい空を思い浮かべながら終わりにいたします。

平成16年湘南篁会総会
日　時：16年5月17日（日）　11時30～
場　所：鎌倉プリンスホテル
会　費：7,000円

学校の活動報告

竹早高等学校教頭　佐藤 正博

平成15年度に大きく変わった点は、都立高校の入試で学区制が廃止されたことと、45分7時間授業2学期制が導入されたことです。学区制がなくなり、他学区から約５割の生徒が入学しています。2学期制の導入は、50分授業が４５分に減った分を、年間の授業日数を多くして補うものです。しかし、3学期制の定期考査や各行事をその位置で2学期制に入れると、定期考査間の授業日数に不均衡が生じます。2学期制が定着するまでには今後も年間行事の検討が必要でしょう。文部科学省の学力向上フロンティアハイスクール事業の指定を15年度から3年間受けています。「確かな学力」の定着を目指し、生徒の学習状況の把握をもとに進路指導や英語の習熟度別授業、総合的な学習の時間の研究等を行います。今年度篁会から教育援助金を頂くことになりました。また会員個人のご寄付も頂いています。後援会組織のない本校としては大変ありがたく、会員の皆さまにこの場をお借りしてお礼申しあげます。援助金は、大学講座で呼ぶ講師への交通費等教育活動の支援のために使わせていただこうと考えています。

以下、実施した年間の活動と進路実績を報告します。

● 平成15年度の主な行事

4月　7日始業式　8日入学式（230名入学）　17日健康診断

5月　1日生徒総会　2日校外学習（遠足）　14日体育祭（小石川運動場）17日PTA総会　29～6月3日中間考査

6月　3日避難訓練・消火器操作等　14日授業公開日　19日第1回学校運営連絡協議会　14日～陸上競技部関東大会（前橋市）出場　3年　大友稚弘　女子800M　5位

7月　9～14日期末考査　16日歌舞伎教室　18日全校集会　夏季休業中　合宿　尾瀬（サッカー、剣道、柔道、バドミントン、吹奏楽、ソフトテニス、硬式テニス）六日町（陸上、軟式野球）河口湖（男女バレーボール、男女バスケットボール）　竹早山荘（天文、写真）北アルプス・槍ヶ岳（山岳部）7月29日～陸上競技部インターハイ（長崎市）出場　3年大友稚弘　女子800M　夏季休業中の補習　各教科で500時間を実施

9月　1日課題テスト・集会・防災講話　19日竹の子祭　20～21日竹早祭　26日前期終業式　27日中学校女子バレーボール大会（竹早杯）28～29日　期間休業日

10月　2日後期開始　11日体験入学・学校説明会　25日オープンデー（公開授業、学校説明会）28日第２回学校運営連絡協議会

11月　4～6日プレ定期考査　7日開校記念日　9日都立高校合同説明会（立川高校）　12～15日　2年修学旅行（沖縄）16日都立高校合同説明会（東京体育館）　28日フロンティアハイスクール事業実践報告会　29日　ＰＴＡ講演会（講師：宮本まき子氏）

12月　4～9日3年定期考査　19～25日　1・2年定期考査

1月　（平成16年）8日授業開始　17・18日大学入試センター試験　29日推薦入試

2月　17日帰国生入試　24日一般入試　25日国際理解講演会（講師：日本国連ＨＣＲ協会　中村恵氏、古川秀氏）

3月　9～12日　定期考査　13日第56回卒業式（248名卒業）24日芸術鑑賞教室（シェイクスピア）　25日修了式　28日中学校女子バレーボール大会（竹早杯・12校参加）

● 平成15年度進路状況

PTA主催土曜自習室　年間12回、生徒参加数はのべ600名。
進路状況（合格者数一覧・現役のみ）

● 国公立大学（15）　東京工業大学、千葉大学（2）、東京外国語大学、東京学芸大学（2）、電気通信大学、埼玉大学（4）、北海道大学、山形大学、信州大学、都立保健科学大学

● 私立大学（252）　早稲田大学（8）、慶応義塾大学（2）、上智大学（2）、東京理科大学（4）、明治大学（27）、青山学院大学（4）、立教大学（7）、中央大学（14）、法政大学（14）、津田塾大学（3）、日本女子大学（4）、東京女子大学（3）、学習院大学（5）、明治学院大学（2）、成蹊大学（4）、武蔵大学（1）、成城大学（3）、日本大学（9）、東洋大学（21）、専修大学（7）、東京電機大学（6）、東京農業大学（2）、東京家政大学（6）、芝浦工業大学（5）、大妻女子大学（3）、昭和女子大学（5）、武蔵工業大学（3）、その他の大学78

● 国立看護大学校（2）

● 短期大学（7）青山学院女子短大（1）、東京農大短期大学部（2）、日体大女子短大、東京家政大短大、ヤマザキ動物看護短大、横浜美術短大

● 専門学校（10）中央工学校、山野美容専門学校、文化服装学院、都立板橋看護専門学校、青山ケンネルカレッジ（2）、服部学園栄養他

● 就職（2）

● 進路先別一覧（平成15年度卒業生248名）国公立大学校等（17）、私立大学・短大（149）、専門学校他（10）、就職（2）、未定（70）

高女42回生（昭和17年卒）
山本　佐代子

42回生は、担任柏木綱先生のお名前をいただき、卒業40周年記念誌『柏葉』2号（昭57）を発行しています。寄稿に当時の私たちの学校生活が偲ばれます。

≪卒業の年、柏木先生から「ホレ、ホレ、ココヘンの子、行くところが決まってなければ、師範に入りなさい」と言われ、私はホイホイと師範に入りました。（葉勢森愛子）≫

先生の軽妙率直なお言葉の中には、時代にはるかに先がけて職場と家庭の両立に苦労を重ねられた先生ならではの重みのある親身なお勧めがこもっていました。まだ、女子の進学率が低いときに102名の卒業生のうち、12名が師範に進学、戦後の教育界で大いに活躍されました。山下孝子さんは女性校長の先がけになられました。

もうお一方の担任は書家の川村龍石先生。一日一枚の清書が宿題で、書道の授業の前日には、墨色を変えた6枚を揃えることに苦労しました。英語科は黒澤ミツ先生。戦時中、英語の授業廃止論の取りざたのあるとき、先生は毅然として私たちに苦手の英文法などみっちりと伝授されました。

以上のほかにも多くの熱心な先生方の下、知識や勉学態度を身につけましたが、何せ、思春期、青年期真っただ中のこと、社会、人間関係、自分自身についてひそかに悩む者も増えていました。

≪今懐かしく思い出されるのは、5年生の国語の時間に小林先生から「足跡」という題で作文を書かされ、私はこれを人生の一つの節目と捉えたことでした。（藤木祥子）≫

小林智昭先生は「ことば」で表現することによって思考する術を作文教育を通して指導して下さいました。家庭での問題と自分の将来について悩んでいたこの文の筆者は、その間の事情を作文に書いてみて、はじめて問題がはっきりしてきたことがうれしかった、解決の自信がわいてきたと語っています。

≪私は優等生ではありませんでしたし、良妻賢母教育に反発すら感じていましたが、子どもを育てる自分の中に、受けた教育の根強さを感じてはっとすることがありました。（斎藤桂子）≫

平成の今日にも通じるよき教育を与えていただいたおかげをもって、やがて傘寿を迎える42回生は、よき生を全うしようと励ましあっています。（平成16年２月11日記）

〔なお、『柏葉』１号は卒業20周年を記念して発行されています。〕

高女49回生（昭和24年卒）
多賀　泰子

昨年2月久々に米国在住の恩師、市村先生が素敵なご子息と来日されましたので、お時間を作っていただき椿山荘で小さな会を持ちました。先生はご子息、姪御さん（上級生の市村さんのお嬢さん）と3人で出席されました。今でも藍染めを教えておいでとのこと。80歳を過ぎても溌剌としてお若く、われわれの要望にこたえてフラダンスのエキスパートの友人と軽やかに踊られました。つらいことも多々おありでしたでしょうに、そんなことは微塵も感じさせぬ、頭を上げ前向きに歩かれるお姿に、私たちも見習わねばと強く思いました。

急なことでしたが、そこは纏まりの良い私達のこと電話一本で30人ほど集まり楽しいひと時を過ごしました。また、6月には横浜みなとみらいでミニ級会を持ちました。クルーズ船でディナー、ホテルで一泊して、翌日は中華街の散策を楽しみました。一期一会が正に今の私たちの心境、「元気なら一回でも多く会いましょう」が合言葉です。

キナ臭い話題の多い昨今ですが、少女時代に恐ろしい戦争と惨めな敗戦経験を持つ我々としては、あの辛い惨めな思いを子や孫にさせたくない、いやさせてはならないと強く思います。それには意に沿わぬ争いに巻き込まれぬ強い意志を持たねばならない、そしてそのためには真実を見極め正しい判断力を持つ脳を保たねばならない。いやはやこれは大変なことです。

高校9回生（昭和32年卒）
諸石　一彦

昨年春に、待望の創立百周年記念誌「竹早の百年」が、自宅に配送されました。記念誌発行に際し、尽力された皆様には、心から感謝申し上げます。

さっそく手に取り、まずは、自分の学年である九回生のページを探し、拝読しました。「百年の群像－同窓生でたどる歴史」の章を、読み終わった後で、なぜか違和感を覚えました。それは、事実と異なる作文だったからでした。後に、その文章は、8回生が記述した事を知り、大変残念に思いましたが、妙に納得もしました。水町清校長先生は、その年の4月、都立北野高校へ転任されており、8回生の某氏と一緒に観劇されることは、ありませんでした。我々9回生の中には、各方面で活躍されてる方が、沢山います。毎年海外に出掛け、登山をしている小里博重君、今年の賀状には、オーストラリア最高峰コジウスコ山と北米3位のレーニエ山にガイドなしで登頂したと書いてありました。また、町田清君は、昭和30年代当時大学で福祉を専攻し、今も神奈川県で福祉関係の仕事をされ、活躍しています。等々。機会があれば、こういった仲間についても会報で知りたいものです。最後に、幹事長F組の清水澄君によると、九篁会は、来年秋、開催予定だそうです。多数の皆様の参加を期待しています。

追伸　水町清校長先生は、都立北野高校に於いて、昭和31年7月4日職員会議中倒れられ、永眠（都立北野高校公式記録）されました。

高校10回生（昭和33年卒）
浅井　哲男

約半世紀前の高校時代を思い起こしてみると、私はかなりユニークな高校生だったようである。入学してすぐ、私一人で二百人の女子生徒を相手にフォークダンスを踊ったり、運動会ではマンボの振り付けで手拍子の音頭を取ったりしました。学級委員の選挙では、男子生徒が結束し学級委員となるや、先生が授業開始時間に少しでも遅れると、「今日は休講にします。」と宣言し、校庭に出て遊んだりしていたので、随分と恨んでいた先生が居たようである。また、一年の時の遅刻が八十七回と言う記録もつくっています。一年でこの有様ですから二年～三年の時は推して知るべしであります。真面目だったのは野球部の部活くらいでありました。そんな私も大学入学と同時にフェンシング部に入部し、一年間の猛練習を経て二年生でレギュラーをとる程上達し、しばしばテレビでも試合が放映されるようになりました。大学卒業後は、四年生の時に全日本大学連盟を組織し、第一回のインカレを開催した実績を買われ、東京オリンピック組織委員会に迎えられました。オリンピック終了後は、フェンシング界最初のジプシー選手として天皇杯獲得を狙う国体開催県を転々とし、今は群馬県に落ち着いています。国体は、四十五歳まで現役で活躍し新潟国体の三冠王を含み十五回出場で七回の優勝を果たしています。一方、二十九歳の時に日本オリンピック委員会委員と日本フェンシング協会専務理事に就任し、昨年七月に勇退するまで約三十四年間我が国におけるフェンシング界をリードしてきました。三年前にはその実績が評価され、藍綬褒章を受賞いたしました。褒賞と言えば、私が受賞する一年前に、野球部にも短期間ではあるが在籍していた緒方先輩が紫綬褒章を受章しており、国広先生は二年続けて愛弟子が受章するという快挙？を成し遂げたことになります。現在は、群馬県の障害者スポーツ協会事務局長として、障害者スポーツの振興に努めると共に、週二日、小中学生にフェンシングを指導するボランティア活動をしています。

高校13回生（昭和36年卒）
菅　民郎
大車輪でグルグル廻る

「鉄棒に飛びつき大車輪をグルグル廻す。タイミングを狙い空中で一回転し着地する。」年に1－2回見る夢。目が覚めても、鉄棒から手を離すときの緊張感、上手に着地できた喜びが残る。竹早高校では機械体操部に所属。体操には鉄棒、徒手、鞍馬、平行棒、吊り輪があるが、私の得意は鉄棒だった。自由自在に操ることができた鉄棒だが、今はおそらくたった1回の懸垂さえできないと思う。おそらく取り返すことのできない技術や若さへの羨望から、いまだに鉄棒の夢を見るのだろう。練習は毎日だったと思う。空き地に鉄棒を組み立て、平行棒を運び、マットを敷いての練習。一週間に一度体育館で吊り輪や鞍馬が使用できた。体育館での練習日はオリンピック選手の三栗さん（当時教育大学の学生）がコーチである。時々体育の本多先生からも指導を頂いた。素晴らしい指導者がありながら大会での活躍は皆無であった。唯一の思いでは竹早高校体育祭での発表演技である。入部時の部員は10人ぐらいだった。よく教えてくれた先輩は大川部長、待山さん、細川さん。同期は阿部裕二君、佐藤方美君、竹下君である。1年後津田君が入部した。名前は忘れかけているが不思議と顔は覚えている。2年生になると体操部以外の友人も多くでき練習回数は減り、卓球や映画鑑賞で遊ぶ機会が増えた。この時の遊び仲間とはいまだにお付き合いをさせていただいている。体操部の阿部君、卓球部の岩根君や松本君、山岳部の門君、そしてブラスバンド部の市瀬君である。卒業してから40数年たっても、いまだに付き合いができる友人がいることを嬉しく思う。そして素晴らしき友人ができた機会を作ってくれた竹早高校に感謝する。還暦を経て、既に何人かは定年退職を向かえた。年々体力は衰えていくが気力は若い者に負けないよう、今後とも仲間と楽しく遊び、有意義な人生を過ごそうと思っている。

高校14回生（昭和37年卒）
秋葉　玄吾
「花は蝶を招き、蝶は花を訪ぬ」

最近、「花は無心にして蝶を招き、蝶は無心にして花を訪ぬ」という良寛和尚の言葉に惹かれている。花とは坐禅、蝶とは人間、無心とは計算なしの意志と私は解している。それで右の句は、「坐禅は自然と人を招き、人間は何の打算もなく坐禅を訪ぬ」となる。ひとり悦に入り、オークランド市の近所に住む人たちとともに、遊戯三昧の日々を過ごしている。時たま、アメリカ各地の禅センターに招かれ、蝶のように飛んでいき、坐禅に留まって法悦の蜜を味わっている。坐禅とはいのち生命の花である。最もいのちを無用に用いるときに咲く、平安な大輪の花である。足を組み、手を組み、背筋と頭を天を支えるように真っ直ぐ伸ばし、目を半眼に開き、呼吸は自然に出息、入息する。そしてただそこにじっと居る。それだけのことである。坐禅を始めて三十年、華甲（還暦）の歳になった。「無心、是、仏の声、即心、是、仏の道」と道元禅師は言っている。花は仏の声を発し、蝶はその声を聞き、仏の道を飛んでいるのか。夢の中の蝶が現実の私を翔んでいるのか、夢中説夢の坐禅で糊口をしのいできた。アメリカ社会を、ゼイタクな人と、貧しいと思っている人とに分けて観る。ゼイタクな人は頭で勝手に悩みを創出して悩む。貧しいと思っている人は、大きな家に住めない、おいしい料理を食えない、ゼイタクが出来ないと悩む。無用な坐禅をして無駄な時間を費やす余裕はない。大輪の花は咲かない。咲いてもすぐ萎む。ほんとうに豊かな人とほんとうに苦しい人は坐禅をする。ただそこにじっと居て、苦痛を感じない。仏の声を聴くようになる。日常働く頭の機能は鈍化して、蝶の飛翔遊戯三昧を逍遙する。お花畑の宇宙が展がっている。

そういうことを、アメリカの人に言って、人工物質だらけのこの大陸の街へ、少しでも坐禅の大輪が咲くお花畑を耕そうと、蝶のように飛んでいる。夢中説夢の我が生である。そういう日常を可能ならしめるあらゆるものを有難いと思うようになった。

曹洞宗北アメリカ国際布教総監

高校15回生（昭和38年卒）

初宿　信子

次期当番学年に当たって

〈次期当番学年の皆さんへ〉

2005年の篁会総会当番学年は私達15回生（昭和38年卒）、36回生（59年卒）、そして今春卒業された56回生が担当です。皆さん竹早での高校生活に色々な思いをお持ちのことでしょうが、過ぎ去ってみると楽しかったことはもとより、苦い苦い思い出も全て懐かしく、今を生きる元気を与えてくれる源にもなってくれます。母校とは有り難いものです。当番学年の方だけでなく色々な方のご意見をお聞きして来年の総会の準備を進めていきたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

〈15回生の皆さんへ〉

今年は既にお知らせしてありますように第4回の同期会（ミーハー会）を5月16日に開きます。いよいよと言いますか、とうとうと言いますか、私達も“還暦”を迎えることになりました。前回でのお約束通り何か赤い物を身に着けて一人でも多くの仲間と再会できるのを楽しみに致しましょう。又、今年は篁会総会の準当番学年ですので、6月6日の総会にも是非多数の方に出席して頂きたいと思います。皆さんから色々なアイディアをお寄せ頂いて、来年の総会を実りあるものにするために。そして、なにより集まってワイワイガヤガヤやるのが好き（これこそミーハーなる所以？）な仲間達ですから、5月に会って3週間後に会うのも大いによしという事に致しましょう。

高校20回生（昭和43年卒）

新井　純治

お魚に恋して

いつのまにか居所が不明になっていたようです。気にもとめずに、釣竿を担いでお魚と戯れていました。それが去年の秋、野球部のOB会で十三回生の竹田先輩にお会いしたことがきっかけで、力添えを得て改めて名簿に載せていただくことになりました。現在私は釣りクラブに所属し、競技会の釣りに精を出しています。ちなみに、諏訪湖で行われたドーム船でのワカサギ釣り大会では、終了間際、出前された「カツ丼」を食べている間に逆転され、連覇を逃し悔しい思いをしました。その時なぜか、野球の地区大会で準優勝に泣いたとき、国広先生が「優勝よりも準優勝の方が字数が多い分、使っている金の量が多いんだぞ！」と慰めてくれた、遠い記憶がよみがえってきたものでした。さて、このワカサギですが、市販されているものとは味が格段に違い、香ばしく美味なものです。夕食のおかず程度であれば初心者でも簡単に釣れますので、秋に諏訪湖を訪れた折には、ぜひ体験してみてはいかがでしょうか。ドーム船はというと、ビニールハウスの様な天井がついた大きなイカダの中での釣りなので、寒さを感じることはなく、揺れることもありません。もちろんトイレもついていて、床に作られた隙間から短い竿を使って釣るので、女性でも心配無用です。秋が深まれば、湖を取り囲む色づいた山々も同時に楽しむこともできます。今では釣りの仲間の輪も広がり、休日は忙しく過ごしています。そして、釣りを通して地域や社会に、何か貢献できることはないかと考えるようになってきた今日この頃です。

高校25回生（昭和48年卒）

赤羽　康弘

25期F組のクラス会

私達25回生は、昨年卒業30周年を迎えました。我がF組は、幹事である私の怠慢により、30周年の記念クラス会を開くことができませんでしたが、それでも2年に1回というペースは崩しておりません。卒業時の担任として大変お世話になりました立野忠雄先生は、既に他界されましたが、1年生、2年生と2年間お世話になりました谷治幸子先生には毎回ご出席いただいております。出席者は毎回20名台をキープしており、これだけ卒業後も交流の盛んなクラスはないものと自負しております。これだけ頻繁に会っていると、不思議なもので卒業後30年も経っているにもかかわらず、皆ちっとも変わりなく、「あれ？誰だっけ？」と言う仲間がひとりもおりませんが、考えてみれば驚くべきことです。谷治先生も、私たちを新入生として迎えてくださった金杉先生のままで、全くお変わりがありません。入学時は、校舎建て替え中だったため新宿高校の旧校舎をしばらく間借りしており、5階建ての新校舎に移った際には非常に嬉しい思いをしましたが、その「新校舎」も既に立て替えられており、30年という年月の経緯を改めて噛み締めるとともに、変わらぬ自分自身の進歩の無さを反省するばかりです。2年に1回のサイクルを途絶えさせぬよう、今年は責任を持ってクラス会を開催する所存です。

高校35回生（昭和58年卒）

柴田　裕之

私の竹早時代

私の竹早時代は、成績優秀者が集まる進学校での落ちこぼれという挫折感から始まった。音楽やバイクに興味を持ち、卓球部に籍を置くも中途半端、複雑で暗い3年間を過ごした。3年生になる春の修学旅行で煙草を吸っていたことが知れ、東京駅まで父親が迎えに来た。この時から私は自分の殻に閉じこもり3年生、浪人1年の2年間にわたり自分だけの世界に埋没した。家を出て、新聞配達のアルバイトをしながら1人で自立した浪人生活を送り、某私立大学に進学。ここでI先生とめぐり合い2年間自分の殻に閉じこもっていた私を受け入れて頂き目の前の世界が大きく広がった。大学院に進学し、2年後に中退。エレクトロニクスの技術商社で10年間勤務し、その間4年半に亘り香港・フィリピンの駐在員として貴重な経験をした。現在、縁あって心理学が生かせる福祉施設職員という仕事についている。I先生との出会いと心理学という学問が今の私を創り上げた。落ちこぼれ、進学校への反発、優秀な同級生へのコンプレックス、親への甘えの構造、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ・ｸﾗｲｼｽの中過ごした竹早時代。しかし、竹早卒業後20年たった今、そのコンプレックスは消え、「竹早の卒業生であることに誇りと自信を持ち」マイペース且つ自然体で日々過ごしている今年、35回生は篁会総会の当番学年。私と宮崎が微力ながらも幹事としてお手伝い。6月6日(日)の篁会総会に是非ご参加願います。再会の日を楽しみにしています。

高校55回生（平成15年卒）

中澤文香・前川由佳

吹奏楽バンザイ

私達は篁会の会報寄稿依頼に真っ先に浮かんだのが現役の頃に属していた吹奏楽部のことでした。吹奏楽部は1年に亘って様々な行事があります。入学式や卒業式での演奏、合宿、コンクール、文化祭、地区音楽会、定期演奏会等があげられます。又、私達が1年生の時は創立100周年の記念式典があり、その中で演奏をさせて頂きました。最も思い出に残っているのは、毎年3月に行っている定期演奏会です。私達の部活は生徒中心の活動で、定期演奏会でも生徒自身で企画・演出等をしていました。締め切りに追われつつも、良いプログラムを作ろうとした日々は今でも忘れません。また私達が2年生の時は部員の集まりが悪く、本番1週間前になっても全員で合奏をすることがほとんどないという状態でした。顧問の岡本先生には、演奏会自体をやめろとまで言われたほどです。しかし、そのような問題を乗り越え(？)、行うことができた演奏会は、特別なものとなりました。大変な苦労もありましたが、今では、やっていて良かったと思えるのも一緒に良い音楽を作ろう、楽しい部活にしようとしてきた仲間がいたからです。現在の部活は部員の数も増え47人という大人数で活動していると聞きます。部員の数が増えるほどまとまるのも大変になり、様々な問題が出てくると思いますが、皆でそれを乗り越えて次の代へとこの部活を引き継いでいって欲しいです。

竹早野球部OB会

高校22回生（昭和45年卒）

今井　大弥太

「国広先生を囲む会」

国広先生は、昭和30年から昭和43年まで国語科教師として教鞭を執られ、その後は国分寺、戸山高校を経て、代々木ゼミナールの講師として、数多くの卒業生、大学受験生の指導に辣腕をふるわれた。また竹早高校在任中は、創設時からの野球部顧問として、スポーツ活動の指導にも熱意を注がれた。その国広先生を囲んでの集いが本会で、現在年に1回、定例化した形で催されている。先生が在任期間の教え子かつ野球部員ということから、約15代にわたっての先輩後輩関係にある者、また当時の野球部は女人禁制だったため、男たちだけが集まる会である。「先生、ご無沙汰です」「やあ、よく来たな」「ああ先生、お懐かしい」「おお、○○か。何年ぶりかな、ちょっと太ったんじゃないか」等々、そんな会話から始まって、いきなり盛り上がり状態に。旧交を温めつつ、思い出話やら近況報告やらに話の花が咲く。時には、初対面の教え子同士での名刺交換、あるボックス席では、ゴルフコンペ開催日時を確認しあう打ち合わせ。そんな中で、場の雰囲気は頂点に達するが、先生を中心にいわば義兄弟の仲（？）にある男同士の集いには、心の通い合い、絆の固さを感じさせる一種独特のものがある。もちろん、竹早野球部以外での出会いは、その人生の中で各人各様、千差万別だが、この場においては、全員がかつての竹早野球部員に成りきるのである。　本会は、一昨年の篁会会報でも紹介していただいたが、現在連絡のとれないOBの方、また23回生を初め、昭和45年以降新たに発足した野球部に所属された方との新たな交流の場ということで、参加ご希望の方は、ご一報いただければ幸いである。

〒113-0021　文京区本駒込5－42－4
TEL/FAX　03－3822－1003
携帯電話　090－8875－5073

竹早音楽部の会

高校11回生（昭和34年卒）

佐伯　祥子

現在、竹早高校吹奏楽部は素晴らしい活躍をされていますが1950年代（7回生～12回生）の音楽部員はコーラスやオペレッタ上演にと大変充実した楽しい高校生活を送っていました。みんな60歳台になり時間にも余裕が出来てきた今又部員の会「竹音会」は旧交を暖めようと時々会合を持っています。

写真は昨年4月、横浜綱島「うな健」でピアノを囲んで懐かしい歌を歌っている様子です。

今年は6月6日（日）「篁会総会」の後、午後5時から新宿「白龍館」に決定しました。詳細は各人に連絡しますが大勢の参加者のある事を願っています。

生物部

高校39回生（昭和62年卒）

野口　慎一

自然観察会を開催いたしました

昨年（平成15年）5月24日に、OB会主催の自然観察会として、千葉県立小金高等学校のビオトープの観察会を開催いたしました。当日は、加藤先生をはじめ、OB13名が参加いたしました。はじめに、同校の生物の教諭で、竹早高校生物部OBの川北さん（昭和52年卒）から、ビオトープの説明や、小金高校でビオトープを作った経緯、生物の変遷について、スライドを使って解説をしていただき、その後、実際にビオトープの観察を行いました。メダカやドジョウ、数多くの植物を観察することができ、また観察後には、加藤先生のお話や、OBどうしの近況など情報交換をし、とても有意義な観察会となりました。今後も年に1、2回はこうした観察会などを開催したいと考えております。ちなみに今年は5月8日（土）に目黒の自然教育園で観察会を行う予定です。最後に、竹早高校生物部OB会のホームページを開設いたしました。ただ、この原稿を書いている1月末以降に、アドレスを変更予定ですので、お手数ですが、「竹早高校生物部OB会」で、検索していただければ幸いです。自然観察会やホームページ、その他お問い合わせは、下記宛にご連絡ください。TEL03-3984-3639

在校生NOW

竹早高校吹奏楽部は同好会として発足してから、今年で45周年を迎えました。僕たち部員の数は今年度で総勢63名となり、日々練習に励んでいます。去年の8月8日に僕たちは東京都高等学校吹奏楽コンクールに出場しました。僕たちの演奏を発表できる数少ない舞台のうちの一つであり、しかも結果が賞で表れるコンクールとあって、練習は大変でしたが、合宿などを含めて、みんな、できる限りを尽くしました。結果は銅賞だったけれど、決して無駄にはならない経験と「思い出」ができました。9月には「竹早祭」に参加しました。竹早生には文化祭でしか演奏を聴いてもらえる機会がなかったので、ここぞという気持ちで楽しく演奏しました。12月には、初めての「校内アンサンブルコンサート」を行うことができました。部員のみんなが友達に「吹奏楽部の演奏をもっと聴きたい」と言われたことが、この演奏会を行う大きな要因でした。当日は音楽室がいっぱいになるほどの人が聴きにきてくれて成功といえる演奏会になりました。これでまた少し、竹早生の人たちに吹奏楽部を知ってもらうことができました。

今年の1月7日にはクラリネットとフルートパートがアンサンブルコンテストに出場し、両者とも「銀賞」を受賞し、今年はとてもすばらしいスタートを切ることができました。

3月29日に練馬文化センターで第16回定期演奏会を行ないますので、一生懸命練習をしています。(毎年この時期に定期演奏会を行っている)ので、是非お越しください。

吹奏楽部
部長 大関晃一

竹早山荘エコー便り

竹早山荘は、竹早高校の宿泊施設として、八ヶ岳山麓清里高原の素晴しい自然環境の中に建てられている同窓生の共有施設です。自然と共存し、自然から学び、人と人が交流する場として、現在は財団法人「竹早会」が管理・運営をしています。この竹早会は山荘を大切に守り立てていこうと考えるOB・OG有志のボランティアによって構成されている集団です。

この山荘を「在校生や同級生にもっと知ってもらい、利用してその良さを体で感じてもらうきっかけを作ろう」とみんなで考え2004年度から、今迄の「賛助会員」を改め、ポイントが付いてお得な「竹早山荘メンバー」を発足します。どうぞ、これを機会にみなさまのご利用をお待ちしています。

■■■ 竹早山荘メンバー募集！ ■■■

☆ 年会費3000円☆お得なメンバーズカードを発行します。
☆特典1. 宿泊料金10%引き
☆特典2. 宿泊1回につきスタンプ1個（同伴者の分もカウント）
☆特典3. スタンプ6個で下記1品プレゼント（無料宿泊券、竹早山荘特製ちまき、地ビール、オリジナルTシャツの中から）

● どなたにもご利用になれる宿泊 ● 研修施設です。● 一万坪の雑木林に囲まれた抜群の自然環境。● 竹早高校の卒業生有志が管理 ● 運営しています。● 個人・グループで、気ままに使えます。（例：楽器持ち込み演奏可、起床・就寝・食事時間の変更可）● 展覧会 ● コンサート等、さまざまなプランに対応。

所在地　山梨県北巨摩郡高根町清里学校寮区
（ＪＲ清里駅から徒歩30分、タクシー5分）

お問い合わせは　事務局（電話03-3943-2415）
予約は現地（電話0551-48-2032）
メール takehayakai@dream.com
ＵＲＬ http：//www32.ocn.ne.jp/~takehayakai/

クラブOB・OG会を創ろう

クラブOLDBOY・OLDGIRL会を創ろう

高校13回（昭和36年卒業）市瀬　勝信

今、竹早高校には、運動部に水泳部など18、文化部に吹奏楽部など18、合計36のクラブ、同好会があり9割の生徒がクラブ活動を行なっているそうです。在学中、放課後や夏休みの合宿などでクラブ活動を楽しんだ思い出をお持ちの方も多いのではないでしょうか。OB.OG会のあるクラブもかなりあるのではと思います。そこで会の幹事さんにお願いですが、会の名称、会員数、連絡先等を同封の連絡はがきで、お知らせ下さい。連絡を頂ければ、次号の会報で皆様に発表したいと考えております。そして、篁会総会に参加してのOB.OG会の開催をご検討下さい。クラブ仲間だけでなくて同期の友達にも会うこともできて、楽しさも増すのではないでしょうか。

竹早版プロジェクト "X"

いかにして会報は蘇ったか

（10回生）
関 文隆氏に聞く

関氏　　角掛氏

創立90周年に新しく創刊されて今回で15号を数える会報『篁』。当時、なぜ今創刊号なのか、不思議に思った方も多いのでは。勿論、同窓会『会報』は今を去る94年前、1910（明治43）年に第１号が発刊。1922（大正11）年『たかむら』と改称し、1942（昭和17）年51号を刊行後、太平洋戦争をはさみ、中断。戦後復刊されたものの、10年に3回ほどの刊行で、1972（昭和47）年の61号を最後に18年間休刊となっていた。

このような状況下、ひとりの同窓生が立ち上がった。10回生の関 文隆さんだ。在学中も学年委員長をやった竹早を愛する青年は、卒業後も役員となり、昨年まで45年間同窓会の理事をつとめた。音楽クラブに籍をおいていた関さんは、顧問の塩崎佳子先生（同窓会の会計責任者であった）の勧めもあって役員を引き受けたものの、高女卒の先輩諸姉にまじって、たったひとりの男性だった。

関さんは言う、「大学受験に失敗しましてね。進学をあきらめ、家業（刃物工業）についたので、引き受けられたのかも。誰だって大学進学をして、会社勤めをしたら、時間がありませんからね。同期の10回生・11回生や先輩の7、8、9回生の皆さんもよく手伝ってくれましたよ。学校の近くで茶舗を経営していた山廣さんもその１人でした。篁会館の２階で年に5、6回役員会を行っていました。」

当時会報の部数は100～200部で、役員を中心に配布されていた。そもそも同窓会名簿の判明率は55%でしかなかったのだ。ところが、岡山県の某名簿会社が創立60周年以上の有名校に限り100万円で追跡調査を行うとの情報を得、資金を工面し、依頼。また小規模の同窓会の開催は、ひとりでやらなければならないときもあった。大先輩の鳩山安子さんに窮状を訴え、応援をしてもらうこともあったという。途中で何回か役員を止めようと思ったこともあったが、塩崎先生から盆暮れに奥さんに贈り物が届き思い留まったという。（笑）

「同窓会」を全員に知らせるには、「会報」が必要だ。「会報」を送る通信費も捻出しなければならない。関さんは、親友の10回生の角掛さんに声を掛けた。制作費の不足分は広告を取ろうということになった。しかし、理事会はこの案に反対だった。2年後の平成元年やっと賛成を取り付けた。幸い、先輩の紹介や同窓生の協賛で広告が次々取れ、大幅な収入が見込まれた。その分を「篁会」の会計に移行した。編集は角掛さんが一手に引き受けた。その後もふたりは広告取りに奔走した。

2000年の創立100周年を前にして、スタッフはもっと幅広い学年から集めて、60歳（還暦）の学年が担当学年となり、若い学年を組み入れて行うこととなった。私たちは関さんのようにはできないが、人生1回位はどこかで母校のために、と思うのだが・・・。

（聞き手：13回生編集委員）

理事会報告

平成15年度は以下のとおり理事会を開催した。

4月17日　出席者19名（委任状3名、理事総数24名）

議題1．新理事の推薦、承認
豊岡貞之氏（15回生）、土田善則氏（15回生）を新理事として承認。

議題2．平成14年度決算報告・平成15年度予算案承認

議題3．会則改正
会則検討委員会案を会報に添付発送し、総会で審議する方針を承認

議題4．百周年記念誌の完成及び発送完了（城戸崎名誉顧問）

議題5．各委員会担当理事等の報告事項
●15年度総会準備状況
●会報編集状況
●百周年記念募金残高取り扱い報告

9月16日　出席者18名（委任状3名、理事総数24名）

議題1．新理事の推薦、承認
福島成二氏（14回生）を新理事として承認。

議題2．15年度総会報告
6月25日、192名もの多数の出席者により成功裏に開催された旨報告。同総会で会則改正案及び4新理事（竹田、浜野、豊岡、土田各氏）が承認。

議題3．委員会担当理事互選
名簿委員会を設置し、以下担当理事を選出（敬称略）
総務：河村恵子、広報：竹田清、名簿：浜田輝夫

議題4．各委員会担当理事等の報告事項
●会則委員会報告：運用細則案の検討を次回の理事会に図る予定。
●会報委員会：今年度総会担当学年と次年度総会担当学年が中心となって運営する。

12月3日　出席者14名（委任状3名、理事総数16名）

議題1．新理事の推薦、承認
犬伏慶子氏（10回生）を新理事として承認。

議題2．会則細則案の承認
（臨時発足）会則委員会が提案した会則運用細則を承認。

議題3．各委員会担当理事等の報告事項
●学校資料室を篁会室として使用開始（総務担当理事）エアコン、机・椅子など最低限度の備品を完備
●総会準備状況報告
●会報委員会状況報告　／　4月中旬発行、同下旬発送予定

平成16年1月31日　出席者10名（委任状3名、理事総数16名）

本理事会の後、会費制による新年会を行い、甲田校長先生、佐藤教頭先生にご参加頂き、楽しく有意義な懇親の時間を過ごした。

議題1．16年度予算案承認
不確定要素もあることから、15年度予算並みの内容で承認。

議題2．篁会のホームページ立ち上げ
作業場所及びメンテナンスの問題などあるが、初期投資40万円程度を前提としたホームページを「先行き、名簿改定の媒体とする」意義も認め、細部を煮詰める条件で、原則として理事会が承認した。

議題3．経費処理ルールの確認
会への入金及び各委員会等の諸費用支払いについては、全て総務部責任者の確認を経て入出金を行うルールを確認した。

議題4．各委員会担当理事等の報告事項
●会報準備状況：委員会の新年度予算提出、2月17日原稿締め切りなど
●総会準備状況：竹早高校ブラスバンド部演奏の可否は期末試験日次第で決定

篁会平成15年度収支報告書

2004/4/1

平成15年4月1日より平成16年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年度より繰越金	10,682,221
入会金（新入会員248名）	1,984,000
年会費	2,513,340
総会会費	1,512,000
名簿代金	311,800
記念誌代金	25,000
受取利息	178
寄付金収入	500,000
雑収入	23,621
小　計	17,552,160
合　計	17,552,160

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,556,713
贈呈記念品費(新卒入学生)	422,725
会報発行費	2,247,655
会議費	87,610
通信費	6,500
旅費・交通費	33,140
事務消耗品費	108,501
慶弔交際費	55,219
事務委託費	55,000
雑費(振込料等)	183,036
対高校教育援助費	50,000
小　計	4,806,099
次年度繰越金	12,746,061
合　計	17,552,160

（次年度繰越金内訳）

銀行預金　みずほ銀行本郷支店普通預金	2,830,581
郵便預金　通常口	4,168,914
郵便預金　定期預金	4,037,476
郵便振替	1,599,090
仮払金	110,000
合　計	12,746,061

篁会平成16年度収支予算

平成16年4月1日より平成17年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年度より繰越金	12,746,061
入会金：新入会員240人	1,920,000
年会費	2,000,000
総会会費	1,200,000
名簿代金	300,000
受取利息	1,000
小計	5,421,000
合計	18,167,061

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,500,000
贈呈記念品費、新卒入学生	400,000
会報発行費	2,300,000
会議費	150,000
通信費	20,000
旅費交通費	60,000
事務、消耗品費	4,000
対高校教育援助費	50,000
慶弔交際費	80,000
事務委託費	60,000
雑費（振込料）	130,000
予備費	200,000
小計	4,954,000
次年度繰越金	13,213,061
合計	18,167,061

平成15年度総会報告

日時：平成15年6月29日（日）　会場：ＫＫＲホテル東京

平成15年度の総会及びそれに続く懇親会は、地下鉄竹橋駅に隣接するＫＫＲ（国家公務員共済組合連合会）ホテル東京で、窓側に皇居を初めとする素晴らしい景色を眺めながら、終始和やかな雰囲気の中で、無事とり行われました（当日の出席者は、会員166名、来賓８名、その他イベント出演者等7名、合計181名。なお出席の申込みをしていて当日連絡無しで欠席した会員は22名、そのうち会費送金済みの方は16名）。

「孔雀の間」での総会では、星野会長の挨拶の後、平成14年度の事業報告、会計報告、平成15年度の事業計画案、予算案及び規約の一部改正案等についての議事が行われ、新任理事２名承認の件も含めて、いずれも承認ないし可決されました。

そして、総会に引き続いて行われた星野会長の「NPOってなんですか」－この指止まれの市民パワー－と題する講演は、非常に興味深く、誠にパワー溢れるお話で、楽しく伺うことができました。

「瑞宝の間」での懇親会は、校長先生のご挨拶や新入会員の高校55回生のお嬢さんお二人の発声による乾杯で始まり、ホテル特製のおいしいお料理（和・洋）や各種飲物をいただきながらの懐かしい友達との語らいのほか、いずれも幹事担当学年の高校13回生の仲間が主力メンバーの「アンサンブルＫ」による箏とヴァイオリンの合奏及び「KAUNA　NUTS」（カウナナッツ）によるハワイアン・ジャズ・カントリーの演奏（フラダンス付き）を皆さんに楽しんでいただいた後、両校の校歌を歌って、お開きとなりました。

（高校13回　遠藤きみ）

平成15年度　篁会総会決算報告

総会出席者　来賓8人／一般会員166人／合計174人

■収入

科　目	金　額 (円)
会費	1,432,000
祝金	73,000
篁会補助	44,713
合計	1,549,713

■支出

科　目	金　額 (円)
会場・懇親会費	1,368,310
出演者謝礼・楽器運賃	100,000
プログラム等印刷費用	32,550
振替用紙印字サービス料	20,040
通信費	20,750
その他諸雑費	8,063
合計	1,549,713

創立100周年記念事業報告

2004年3月31日　「府立第二高等女学校」「都立竹早高等学校」
創立100周年記念事業実行委員会 委員長 城戸崎 愛

2000年11月18日の記念式典及び祝賀会に始まりました記念事業は、写真集「たずさえて友と」の刊行、記録ビデオテープ「竹早の百年」制作、記念碑建立、記念誌の出版をもって終了いたしました。

これらの事業は約2400名の篁会会員の募金協力により推進することができました。また、写真集・記念誌は、解散した（財）篁会館からの資金により、発行が実現したのです。熱意あるボランティアの方々に支えられ、限りある資金をいかに有効に使うかに心を砕き、その上で、少しでも多くの資金を次世代に残すべく努力を重ね、その間に数年の月日を費やしました。

ここに、収支報告をいたしますと共に、残高の全てを創立100周年記念基金とすることをご報告いたします。

基金には規約を作成し、篁会並びに母校に寄与する財源とさせていただきたく、今後とも、ご理解ご支援の程お願い申し上げます。

篁会会員、教職員の皆様のご協力に改めて御礼申し上げます。

収入の部

科　目	金　額
募　金（2392名）	24,028,540円
篁会より補助金	2,800,000円
記念祝賀会	4,684,000円
会費	3,640,000円
祝儀	1,044,000円
販売収入	396,150円
ビデオテープ、写真集、記念誌	
利　子	17,341円
雑収支	30,920円
（財）篁会館より寄付	3,969,909円
合　計	35,926,860円

支出の部

科　目	金　額
記念碑建立	10,467,479円
記念式典	1,155,183円
記念祝賀会	8,542,229円
募金関係事務費	3,723,040円
資料室整備・運用費	2,000,929円
コピー機レンタル	1,265,444円
パソコン、資料購入、備品など	735,485円
記念誌・写真集編集費	3,738,211円
事業委員会活動費	669,079円
販売収入に伴う経費	90,620円
創立百周年記念基金	5,540,090円
合　計	35,926,860円

※ ￥5,540,090円は預金通帳の末尾金額となります。

収入の部

科　目	金　額
篁会館よりの補助金	2,000,000円
合　計	35,926,860円

支出の部

科　目	金　額
恵雅堂出版への支払い	16,030,091円
写真集	4,547,340円
記念誌	11,482,751円
創立百周年記念募金に寄付	5,540,090円
合　計	35,926,860円

記念誌は多少の残部があります（送料込み一部5000円）現金書留にて、竹早高校内　篁会宛お申込みください。

※正誤表は平成16年3月に作成したものです。

昨年の総会に於いて承認された新会則

〈篁会会則〉

【名称及び目的】

1. 本会は篁会と称し、事務所を東京都文京区小石川4-2-1東京都立竹早高等学校内におく。
2. 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

【会　員】

3. 本会は、次の会員及び客員により構成する。
   (1) 会員　下記学校の卒業者（中途退学者で本人が入会を希望し、理事会が承認した者を含む）。
   ① 旧東京府立第二高等女学校・同補習科・同専攻科、東京都立第二高等女学校（以下「旧制第二高女」という）。
   ② 東京都立竹早高等学校
   (2) 客員　旧制第二高女及び東京都立竹早高等学校の現・旧教職員

【役　員】

4. 本会に次の役員をおく。

名誉会長	1名	現職校長に委嘱する。
名誉顧問	1名	前会長に委嘱する。
会　長	1名	理事会が会員から推薦し、総会において選任する。
副会長	3名以内	理事の互選により、会長が委嘱する。
理　事	30名以内	学年幹事の互選若しくは推薦又は理事の推薦により、理事会において選任する。ただし、選任後直近の総会の承認を得なければならない。
会　計	3名以内	理事の内から会長が委嘱する。
監　査	2名	理事会が会員から推薦し、総会において選任する。
学年幹事	卒業各回ごとに2名以上とし、会員から互選する。	

【役員の任務】

5. 役員の任務を次のとおりとする。

会　長	会務を統括し、本会を代表する。
副会長	会長を補佐し、会長に事故があるときは会長の職務を代行する。
理　事	会長、副会長を補佐し、合議により企画、立案等の会務を処理し、本会の運営にあたる。
会　計	本会の収入及び支出を管理する。
監　査	本会会計の監査を行い、総会で会員に報告する。
学年幹事	クラス会、同期会の結成に努め、同期会員間の連絡にあたり、適時、理事を援けて本会の運営に協力する。

【役員の任期及び解任】

6. 役員の任期は、選任された年の総会の日から3年とし、再任は2期までとする。ただし、学年幹事については、任期を定めないものとする。
7. 会員の発議により、理事会において出席理事の三分の二以上の賛成決議によって、任期中の役員を仮に解任することができる。この場合、次期総会までの間、当該役員の職務を停止し、総会において決する。

【会　議】

8. 会議は次のとおりとし、会長が招集する。

総　会	年1回、原則として6月に開催する。ただし、理事会の要請により臨時に開催することができることとする。
理事会	年3回を定例とし、その他に理事の要請により開催することとする。
学年幹事会	理事会の要請により開催する。

【会　費】

9. 会員は、会の運営の用に宛てるため会費を納入することとする。
   (1) 会費の種類は年会費及び入会金とする。
   (2) 年会費の額は1,000円とし、総会開催通知に同封の振替え用紙により納入する。
   (3) 新入会員は、入会金8,000円を入会時に納入する。ただし、入会後3年間の年会費を免除する。
   (4) 総会の費用については、別途実費を徴収することができる。

【会　計】

10. 会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了する。
    (1) 会計担当理事は、会計簿に収支に関する一切の事項を明記、管理し、理事会に報告する。
    (2) 理事会は当該会計報告を監査に付し、その結果を決算報告書として総会に報告し、総会の承認を得なければならない。

【事　業】

11. 本会はその目的を達成するため、理事会が中心となって、適時会報及び会員名簿を発行するほか、会員の参加する各種の事業を行う。
    (1) 理事会は、前条に定める各種事業を推進するため、各事業ごとに担当理事を選任した上で、理事会直属の機関として、委員会を設けて活動することができる。

【地方支部】

12. 会員は、地方に本会の支部を設けることができる。この場合、各支部代表役員は理事会と緊密な連携を保つこととする。

【雑　則】

13. 会員は、転居、改姓名の場合は、本会へ通知しなければならない。死亡の場合は遺族又は近隣の会員等が本会へ通知することとする。
14. 本会則に定めるもののほか、理事会の運営及び会計の処理に関しては、必要に応じ理事会が細則で定めることができる。その細則の内容は、制定の都度、直近の総会で報告されなければならない。

【会則の改正】

15. 本会則は、理事会が発議し、総会において出席会員の過半数の賛成を得て改正することができる。

【付　則】

(1) この改正会則の発効日は、平成15年6月29日とする。
(2) この改正会則の発効日前に選任され、現に役員である者は、改正後の会則に定める手続きによって選任されたものとみなす。

平成15年度篁会理事名簿

名誉会長	城戸崎　愛（高女43）
会　長	星野　昌子（高2）
副会長	萩　隆之介（高12）
	犬伏　慶子（高10）
	黒瀬　忠生（高11）
総　務	河村　恵子（高12）
	遠藤　きみ（高13）
広　報	竹田　清（高13）
	浜野　輝夫（高13）
総　会	村上　伸一（高14）
	吉田　年子（高14）
	福島　成二（高14）
	豊岡　貞之（高15）
	土田　義則（高15）
	坂原 富美代（高17）
	大高　恵子（高17）
	永長　隆徳（高17）
会　計	細田　裕美（高28）

お知らせ

■年会費納入のお願い

昨年好評だった、装いも新たな横書きになった会報「篁」を今年もお届け出来た事を皆様に感謝申し上げます。

①年会費1,000円

②総会・懇親会費用8,000円（参加の方）

③以上同封の郵便振込用紙をご利用ください

■住所変更は

昨年の会報は約13,000通発送し、約300通が返送されてきました。

住所が変わった方は、下記へご連絡ください。

同封のハガキ（総会出欠用）をご利用も可。

〒112-0002　文京区小石川4-2-1

東京都竹早高校内「篁会・名簿委員会」宛、お知らせください。

■ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。ご意見・ご希望などなんでも同封のハガキ（総会出欠用）をご利用の上ご連絡ください。

謹んで御冥福をお祈り申し上げます

高女

大正14年卒業	（第25回生）	右近　静子（高木）	H15.4.22
大正15年卒業	（第26回生）	（甲組）越智　はな（佐藤）	H10
昭和 2年卒業	（第27回生）	（甲組）浅生　直子（堀）	
		（甲組）志茂　幸江（山崎）	H10.11.17
		（乙組）徳永　三枝子（斎藤）	H14.10.6
昭和 3年卒業	（第28回生）	（甲組）正木　みち（乙骨）	H14.9.7
		（甲組）松宮　ハツ（長瀬）	H15.3.19
		（乙組）池貝　恒子（片倉）	H15.4.15
昭和 4年卒業	（第29回生）	（甲組）岡部　保子（宮崎）	H15.4
		（甲組）小串　登美子（関口）	H15.9.7
昭和 5年卒業	（第30回生）	（甲組）岡田　歌子（林）	H15.4.14
		（甲組）平井　澄子	H14.6.6
昭和 6年卒業	（第31回生）	（甲組）林　豊子（阿野）	H15.1.22
昭和 8年卒業	（第33回生）	（乙組）朝長　慶子（新納）	H15.7.31
		（乙組）神保　翠子（橋本）	H14.5.21
昭和 9年卒業	（第34回生）	（乙組）上野　美重子（伊藤）	H13.8.3
昭和11年卒業	（第36回生）	（紅組）神戸　正子（笠木）	H15.4.13
		（白組）室田　久子（深井）	H14.1
		（白組）小山　敏子（桜庭）	H15.2.3
		（白組）吉澤　栄（渡部）	H15.7.9
昭和13年卒業	（第38回生）	（紅組）鳥羽　しま子（柴原）	H14.9.4
昭和14年卒業	（第39回生）	（紅組）染川　悦子（岡野）	H14.1.11
		（紅組）寺田　イト子（宮島）	H15.5.9
昭和16年卒業	（第41回生）	（紅白）原　恭子（香原）	H14.12..29
昭和20年卒業	（第45回生）	（紅白）秋葉　哲子（戸村）	H14.7
昭和21年卒業	（第47回生）	（紅白）石黒　孝子（奥田）	H15.1.26
		（紅白）伊崎　英子（鈴木）	H10.10.3

竹早高校

昭和34年卒業	（第11回生）	（A組）丸山　紘子（松田）	H15.11
		（C組）橘　サカエ	H15.7
		（F組）宇田川　廣	H15.6.10
		（F組）栗田　温子（小山）	H15.6.19
昭和43年卒業	（第20回生）	（E組）堀内　小百合	H14.9.22

H16年2月29日までにご連絡を頂いたものです

編　集　後　記

昨年の9月16日の第1回編集会議から篁会報15号発行はスタート致しました。楽しく読んで頂くためには、楽しく編集しなければならないと、委員一同は毎月1回、終盤には数回集まり意見の交換、編集作業を行なって参りました。今年の総会当番学年でもある14回生委員諸君が素晴らしい企画力を発揮してくれまして、大いに助かりました。とにかく、大切に創りましたので、大切に読んで下さい。そして、竹早で過ごした青春の時と、友の顔を懐かしく思い浮かべて頂き、ひとりでも多くの方が総会に出席して下さいますように願っております。最後になりましたが、投稿頂きました皆様に感謝申し上げます。（市瀬勝信）